

切込焼 染付牡丹唐草文花生 一对

所在地 宮城県加美郡加美町宮崎字東町 洞雲寺

指 定 加美町指定有形文化財（工芸品） 平成 26 年 8 月 22 日

概 要

曹洞宗の寺院としては県下有数の古刹である洞雲寺に伝世した切込焼の花生一对です。

切込焼は、江戸時代後期から明治の初めにかけて本町切込地区で生産された陶磁器のことで、わが国の近世磁器窯のひとつであり、仙台藩御用窯としても知られています。

本花生は、大きく上下二段から成る体部と笠部（口縁）、そして双耳から成り、それぞれのパーツをロクロ等で成形した後に接合して製作されています。文様は、呉須を用いて描く「染付」で表現され、ブルーに発色した牡丹唐草文や瓔珞文などが器体を装飾します。そして体部背面には、上下段にわたって呉須で銘が記されています。

銘によれば、本花生は、嘉永2年7月に「願主 仙府大町一丁目 恵比寿屋徳蔵」以下7名により洞雲寺に奉納されたことがわかります。嘉永2年における切込窯の磁器製造技術を物語る作品であるとともに、その銘は当時の切込窯場に関わった仙台及び地元の商人、棟梁山下吉蔵を始めとする職人、地元有力者たちの存在を証明し、切込焼の歴史を伝える重要な資料です。

花生①

(正面)



花生②

(正面)



花生①

(背面)



花生②

(背面)

